

2022年10月

第145号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

安倍元総理大臣の国葬について

安倍元総理大臣は先の参議院議員選挙応援のため奈良駅前で応援演説中、暴漢による拳銃事件の犠牲となりお亡くなりになった。この平和な日本国内で白昼堂々とテロ行為が行われたことに対して驚きと同時に怒りを覚えずにはいられない。

安倍元総理は憲政史上最長の8年8ヶ月に亘って総理大臣を務められた。在任中はG7の首脳会議でも顔役的存在で大役を務められたほか、個人的付き合いでも米国のトランプ大統領とは深い絆を結び、今問題となっているロシアのプーチン大統領との間でも北方領土問題解決のため精力的に交渉を重ねるなど、外交面での活躍が特に目を見張るものがあった。また、東シナ海など中国や北朝鮮の現状変更に力を注ぐことが危惧される事態に対処するため国内法の整備にも尽力してきた。

お亡くなりになって4日後の7月12日、自民党本部には安倍元総理の死を悼む老若男女で埋め尽くされ、海外でもアメリカのホワイトハウスで半旗が掲げられ、オーストラリアでは公共施設で日本の国旗を模した赤と白でライトアップされるなど世界各国で追悼の動きがあった。これらの動きを受けて、岸田内閣は9月27日に「国葬」として葬儀を執り行うことに決定した。「国葬」を執り行うにあたって戦前は「国葬令」という勅令が存在し、それが根拠となっていたが、現行法施行に伴い失効し、現在はこれを直接定めた法律は存在しない。

戦後は1967年に総理大臣経験者の吉田茂氏が特例的に法的根拠のないまま「国葬」として葬儀が執り行われている。岸田首相は「国葬」を行う理由として「憲政史上最長の8年8ヶ月にわたり重責を担ったこと」「内政・外交で大きな実績を挙げ国際社会から高い評価を得ていること」「民主主義の根幹たる選挙期間中、突然の蛮行で逝去したこと」などを上げ、法的根拠として「内閣府設置法」4条3項「国の儀式並びに内閣の行う儀式及び行事に関する事務に関すること」をあげ閣議決定で執り行うことができると説明している。

これに対して、野党の一部は説明不十分・税金の無駄遣いとして「国葬実施反対」あるいは「出席拒否」の姿勢を見せている。

9月19日には英国のエリザベス女王の葬儀が執り行われた。世界から500以上の元首や要人を迎え厳粛で品位溢れる葬儀の様子が世界中に放映され生前の故人の人物が滲み出るような素晴らしい葬儀であった。

意見の自由は尊重されるべきだが国内での見苦しい姿の発信は控えたいものだ。



「菜根譚」

中国古典の知恵に学ぶ

声高に主張せず穏やかに生きる



主義主張を振りかざす者は、それが誤っていたとき、その主義主張を理由に批判される。

また道徳をふりかざす者は、過ちを犯したとき、その道徳を理由に誹謗中傷される。

だから、悪に近づかず、しかもよい評判や名声とも無縁に、ひたすら穏やかな気持ちで生きるべきだ。

それでこそ、安全に世の中を渡ることができる。

(前集 175)

他人の才能をねたまない

一方の意見だけを鵜呑みにして、腹黒い人間に騙されてはならない。

自信過剰になって、勇み足になってはならない。

自分の長所を吹聴し、他人の短所を暴き出すようなことをしてはならない。自分が無能だからといって、他人の才能をねたむようなことをしてはならない。

(前集 120)

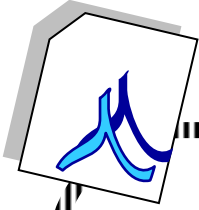
社会生活の中で悟る

人としての正しい道を極めるために、人とのつき合いを一切絶って隠遁生活をするなどという必要はない。

逆に、普通の社会生活をする中で、その方法を見つけることができるのである。

また、自分という人間を知るためには、必ずしも、すべての欲望を絶った無味乾燥な生活をする必要はない。自分本来の心を静かに見つめる努力によって自分という人間がわかるものである。

(後集 41)



西園寺 公望 (日本の公家、政治家、教育者)

- 嘉永2年10月23日 (1849年) 父は清華家の当主徳大寺公純、母は末弘斐子の次男として現在の京都市に誕生。
- 嘉永5年1月27日 (1852年) 従五位上に昇叙。西園寺師季の養子となる。
- 安政4年10月7日 (1857年) 元服し、昇殿を聴され、右近衛権少将へ。
- 慶応3年12月20日 (1868年) 右近衛権中将兼官軍参与を兼帯。
- 明治元年 (1868年) 権中納言、新潟府知事に異動。
- 明治3年12月3日 (1870年) フランス、ソルボンヌ大学に留学。
- 明治17年7月7日 (1884年) 華族令施行により侯爵を受爵。
- 明治18年2月14日 (1885年) 駐オーストリア・ハンガリー公使兼任。
- 明治24年9月4日 (1891年) 賞勲局総裁に就任。
- 明治27年5月10日 (1894年) 枢密顧問官兼務。
- 明治28年6月21日 (1895年) 勲一等瑞宝章受章。
- 明治29年5月30日 (1896年) 外務大臣を兼任。6月勲一等旭日大綬章受章。9月外務・文部大臣留任。
- 明治33年10月27日 (1900年) 枢密院議長に就任。内閣総理大臣臨時代理。
- 明治39年1月7日 (1906年) 内閣総理大臣に就任。文部大臣兼任。
- 明治44年8月30日 (1911年) 第二次西園寺内閣総理大臣就任。
- 昭和3年11月10日 (1928年) 大勲位菊花章頸飾を受章。
- 昭和15年11月24日 (1940年) 薨去
- 昭和15年12月5日 (1940年) 国葬

オススメの *BOOK*



「SHO TIME」大谷翔平 メジャー120年の歴史を変えた男

著者 ジェフ・フレッチャー 訳者 タカ大丸 発行 徳間書店

著者はメジャー取材歴24年。エンゼルス番として10年目を迎えた記者。大谷選手についてはエンゼルス入団以来追い続けて来た。右腕の手術などで、本書の発行を一時延期に追い込まれたが、取材を断念したわけではなく昨年からの活躍に活躍する大谷選手について、その後も、丹念に取材を重ねてきた。大谷選手がエンゼルス入団以来の履歴書でもある。

今年度はベブルースを凌ぐ活躍を見せている大谷選手の素顔を徹底的に追い求め追求したのが本書である。メジャーで最も活躍している選手の素顔を見ることが出来る。



「保険金を使える」という住宅修理トラブルにご注意！！

ご相談事例

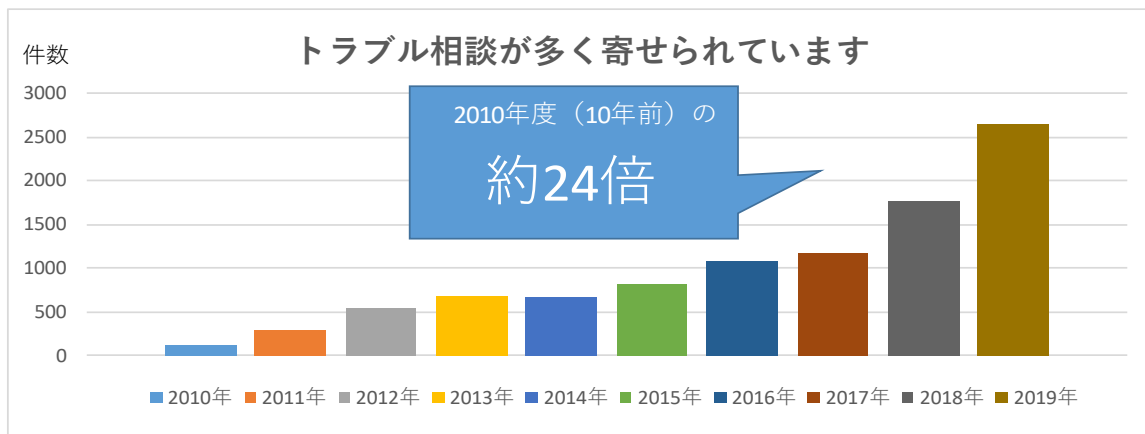
保険金請求の手伝いをしているというコンサルタント業者から、「去年の地震で保険金請求したか」と突然電話があり、「していない」と返答をすると家に訪問された。家の周りを調査し基礎や外壁の細かな亀裂に対して、「地震による損害と申告すれば保険金がおおり」と言い、災害復興支援業務依頼の書面を見せられたので契約した。

後日、保険会社の確認を経て保険金が支払われたが、直後にコンサルタント業者から保険金の40%を5日以内に支払うよう請求があった。保険金の40%報酬は高すぎるのではないか。
(国民生活センター相談事例をもとに一部改変)

※台風・豪雨・大雪・地震などの自然災害の後にトラブルが多くなります※

★業者から次のような勧誘がありましたら、トラブルに巻き込まれる可能性がありますので契約する前にご加入の保険会社、代理店へご相談下さい。

- ・保険金が支払われるように被害診断をして保険請求保険金請求手続きを代行するという勧誘
- ・保険金請求代行のコンサルタント料(報酬金)は、支払われた保険金で対応できるという勧誘



【編集後記】

大型台風がニッポン列島を縦断し、東北地方でも一部被害が報道されているが、中心がやや当初予定に比べて右寄りにそれたため大被害とならずホッとしているところである。

暑さ寒さも彼岸までと昔から言われているが、もう秋の彼岸を迎えている。朝夕の気温もめっきり涼しくなってきた。天高く馬こゆる秋、味覚の秋でもある。

夜が長くなり読書の秋でもある短い秋を有意義に過ごしたい。